

## 「エリヤよ。ここで何をしているのか」

エリヤの生涯Ⅲ

列王記第一 19章 1節～21節

## はじめに

礼拝では、旧約聖書からエリヤの生涯を通してみことばを聞いています。旧約聖書は、私たちに救い主キリストの出現を示すものですが、旧約時代に生きた人々の信仰を私たちに語り伝えるものでもあります。

さてエリヤは、バアルの預言者に大勝利しました。が、王妃イゼベルの殺害命令に怯え、逃げだしました。しかし、主はエリヤに「エリヤよ。ここで何をしているのか」と問いかけられました。

けさ、私たちも、「ここで何をしているのか」という主の問いかけを聞き、それに応えたいと思います。

## 1 エリヤの逃亡。

アハブ王は、エリヤがバアルの預言者を殺したことを王妃イゼベルに告げました。すると王妃は、エリヤ殺害を命じたのです。エリヤは、カルメル山からベエル・シェバまで約 150 キロの道を逃げました。

## (1) 自分のいのちを取ってください (4)。

エリヤは、連れてきた若者を残し、荒野へ一日の道のりを行き、えにしだの木の下に座り、主に言いました。「主よ。もう十分です。私のいのちを取ってください。私は先祖たちにまさっていませんから」と。自分のような、信仰の先輩と比べて少しも良いところのない者が、これまでそれなりにやってきました。でも、もう十分です。死にたい。エリヤは、そう願ったのです。

## (2) 御使いの励まし (5-8)。

そんなだだをこねるエリヤに対し、御使いは、忍耐強く語りかけ、パン菓子と水を用意して、「起きて食べなさい。旅はまだ遠いのだから」と励ましました。ここで死のうと願ったエリヤに「旅はまだ遠い」と言われます。

まだ、目的を達していない。することは、まだ残されていると。

そこでエリヤは、四十日四十夜、歩いて神の山ホレブに向かったのです。

ホレブ山は、主がモーセに現れて、十戒と戒めを与えた場所です。主は、そこへエリヤを導かれたのです。エリヤに、残された使命を与えるためでした。

## 2 かすかな細い御声 (10-18)。

エリヤは、ほら穴に入り、一夜を過ごしました。すると、主がエリヤに語られました。

### (1) エリヤよ。ここで何をしているのか (9 13)。

エリヤは答えました。「私は万軍の神、主に熱心に仕えました。しかし、イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、あなたの預言者たちを剣で殺しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを取ろうとねらっています」(10)。

### (2) 主の山で主の前に立て (11)。

「主の山」「主の前」というように、主はエリヤに、主を覚えさせました。今、自分は主の山にいて、主の前にいるのだと。

適用：私たちも、教会に来るときは特に、「主の教会に来ているのだ」「主の前に立っているのだ」という自覚が大切です。それがないと、主のみことばを聞くことは出来ません。

すると、激しい大風が山々を裂き、岩を砕きました。しかし、風の中には主はおられませんでした。地震が起きましたが、地震の中にも、主はおられませんでした。続いて火がありましたが、火の中にも主はおられませんでした。火のあとに、かすかな細い声があったのです。

適用：私たちは、主を求めるのではなく、特別な現象を求めやすいものです。今の時代も、いやしとか、異言とか、恍惚状態とは、信仰に特別なものを求めます。しかし、ここでは「かすかな細い声」があったのです。私たちも、この「かすかな細い声」を聞くことが大切です。その声は、「聖書」の中から、聞こえてくるものです。

私たちが、静かに聖書を読むうちに、主は確かに私たちに語ってくださるのです。

## 3 新たに与えられた使命 (15-21)

このかすかな細い声は、エリヤに新しい使命を与えました。

### (1) ハザエルをアラムの王に、エフーをイスラエルの王にせよ。

悪王朝を滅ぼすために、主は、アラムの王とイスラエルの王を使おうとされました。その王を任命する役目をエリヤに与えたのです。

### (2) エリシャをあなたに代わる預言者に。

主は、エリヤに七千人の「バアルに仕えない」者たちを残すと約束されました。そしてもう一つの使命として、エリシャをエリヤを継ぐ預言者として立てよとお命じになりました。

このように、エリヤにはまだ主の大切な仕事が残っていたのです。

エリヤはエリシャを見つけ、預言者に任命しました。エリシャは父母に別れを告げ、エリヤに従い、仕えました。

適用：このように、私たちにも、大切な「やるべきこと」が残されています。勝手に「自分など用のない人間だ」と、あきらめてはいけません。

「ここで、何をしているのか」と、主はいま、私たちに語っておられるのではないのでしょうか。

## 結論

エリヤが絶望して、死を望んだとき、主はエリヤに近づき、まだ仕事が残っていることをお示しになりました。

私たちに与えられた使命は、どこで知ることが出来るのでしょうか。それは「かすかな細い声」を聞くことによってです。では、それはどこで聞くことができるのでしょうか。

それは、聖書を読むことによって、教会で説教を聞き、ともに聖書を学ぶことによって聞くことができるのです。

私たちは、聖書を通して、救い主イエス・キリストのお会いすることができます。そして、イエス様を知り、主とともに歩むことが出来るのです。

## 招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

## 祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私はあなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。

しかし、イエス様は、私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださいと言われました。感謝します。  
私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。  
あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださり、私を新しく生まれさせてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。